

平成29年度 第8回北区協議会次第

日 時 平成29年11月22日(水)

午後1時30分から

会 場 三ヶ日協働センター 2階 201会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

(1) 報告事項

ア (仮称)市民音楽ホールの整備について

【創造都市・文化振興課】 資料P1 (別刷資料あり)

4 その他

(1) 地域の情報等について

(2) 次回の開催について

(3) その他

5 閉 会

区 協 議 会

区 分	□諮問事項 □協議事項 ■報告事項			
件 名	(仮称) 市民音楽ホールの整備について			
事業の概要 (背景、経緯、 現状、課題等)	<p>1. 背景 浜松市教育文化会館（はまホール）が、老朽化と耐震性の問題から平成27年3月に休館した。 その後、同施設のあり方を検討する「教育文化会館（はまホール）検証検討会」を設置し、平成28年3月に同検討会から、はまホールと同等規模の新施設（ホール）が必要であることなどの提言を受けた。 このため、市としては、創造都市政策における市民の「文化創造拠点」と位置付ける新施設の整備を検討することとした。</p> <p>2. 現状 平成28年7月から「浜松市創造都市推進会議」において、創造都市政策における市民の「文化創造拠点施設」となる新施設の整備を検討し、平成29年6月に浜松市として「浜松市市民文化創造拠点施設基本構想」を策定した。</p> <p>3. 課題 基本構想が長期的な取り組みとなることから、新拠点施設が整備されるまでの間、市民の音楽文化活動が停滞してしまうことが危惧される。</p>			
対象の区協議会	北区協議会			
内 容	<p>(仮称) 市民音楽ホールの整備について、以下のとおり報告する。</p> <p>1. 目的 市民の音楽文化活動や学習成果等の発表の場を創出</p> <p>2. 施設の役割 (1) 浜松市市民文化創造拠点施設完成までの代替 (2) 音楽の都・浜松を支える市民活動の促進 (3) 次世代の担い手の育成 (4) 市全体の文化施設最適化の促進</p> <p>3 事業概要 (1) メインターゲット：学校などの教育団体や吹奏楽などの音楽団体 (2) 建設場所：都田センター用地（北区新都田三丁目2） (3) 施設機能：1,500席程度のホール、楽屋、リハーサル室、多目的室、駐車場</p>			
備 考				
担当課	創造都市・文化振興課	担当者	松本 芙峰明	電話 457-2301

平成29年11月22日

北区協議会 様

浜松市市民部
創造都市・文化振興課

(仮称) 市民音楽ホールの整備について

1 目的

北区都田センター用地に(仮称)市民音楽ホールを整備し、市民の音楽文化活動や学習成果等の発表の場を創出する。

2 背景

- ・教育文化会館(はまホール)検証検討会の提言を踏まえ、創造都市政策における「浜松市市民文化創造拠点施設基本構想」(以下、基本構想)を策定
- ・基本構想の中で、施設整備は、浜松城公園東側の「賑わいと交流ゾーン」を候補エリアとしているが、元城小学校跡地の発掘やエリア計画の策定などを含む長期的な取り組みが必要
- ・現在、はまホールの代替施設として1,000席以上の施設(アクトシティ浜松、浜北文化センター)への利用が集中し、各利用団体の予約が取りにくくなっており、活動へ支障が発生

3 施設の役割

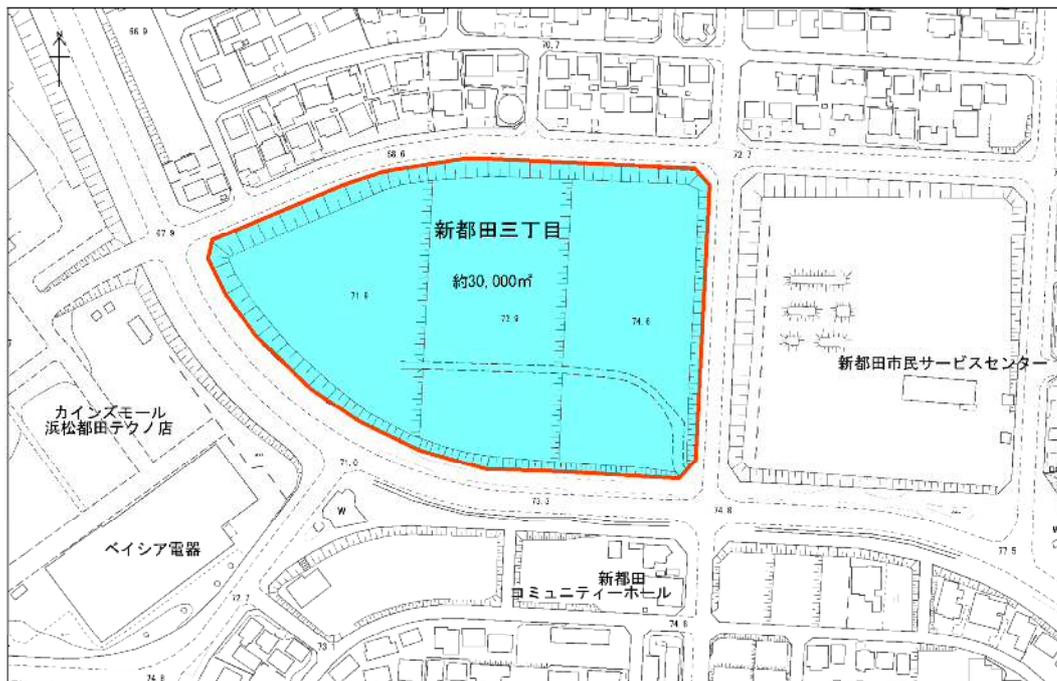
- (1) 浜松市市民文化創造拠点施設完成までの代替
- (2) 音楽の都・浜松を支える市民活動の促進
- (3) 次世代の担い手の育成
- (4) 市全体の文化施設最適化の促進

4 事業概要

- (1) 主な利用者：学校などの教育団体や吹奏楽などの音楽団体など
- (2) 建設場所：都田センター用地(北区新都田三丁目2) 面積：約30,000㎡
- (3) 施設機能：1,500席程度のホール、楽屋、リハーサル室、多目的室、駐車場

5 供用開始予定 平成32年度中

建設場所（都田センター用地）の位置・敷地現況図



(仮称) 市民音楽ホール整備の背景について

1. 1,000 席以上の施設への利用集中

施設名	座席数	平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度	
		年間	土日祝	年間	土日祝	年間	土日祝
はまホール	1,492	71.7%	90.2%	—	—	—	—
アクトシティ浜松大ホール	2,336	92.5%	96.3%	91.4%	99.1%	90.0%	95.7%
アクトシティ浜松中ホール	1,030	76.3%	95.5%	84.9%	93.8%	79.7%	97.4%
浜北文化センター大ホール	1,208	63.1%	90.7%	66.8%	90.3%	69.6%	90.4%

- ・アクト大中ホール、浜北文化センター大ホールはいずれも土日の使用率が90%超
- ・各利用団体の予約が困難となっており、活動へ支障が生じている。

アクトシティ浜松のケース

活動への支障の例 — A校のケース

- ・10/○日の予約申込み → 4 団体の予約が重複して抽選 → **A学校は落選**
- ・11/○日の予約申込み → 6 団体の予約が重複して抽選 → **A学校は再落選**
- ・11/□日の予約申込み → 4 団体の予約が重複して抽選 → **A学校は再々落選**



結果としてA学校はホールを利用した行事を取り止めた。

2. アクトシティ浜松の機能低下

- ・アクト大ホールでの興行は、H23, 26 の年平均 44.3 日が H27-29 は年平均 27.3 日に減少。
※静岡市民文化会館や名古屋のホールに興行系イベントが流れている。
- ・学会やシンポジウムなどホール利用を含めた大規模コンベンションの開催が、H26 は 16 件あったものが、H27 は 8 件、H28 は 9 件に減少。

1. 創造都市実現に向けた現時点での課題

- ・創造活動を受け入れる場が不足している
- ・地域資源の魅力に気づく機会が十分ではない
- ・創造都市実現への戦略・体制の充実

2. 新施設の役割・必要な機能

- ・創造活動の支援、多様な利用や交流を促進する機能の充実
- ・地域資源の最大限の活用
- ・はまホールの後継施設としての発表・鑑賞・練習機能の提供
- ・多様な文化・価値観・知識の連携・交流
- ・ワークショップやアウトリーチ活動への積極的な取り組み
- ・創造活動を総合的・戦略的に推進する体制・仕組みの構築

3. 施設整備の基本的な考え方

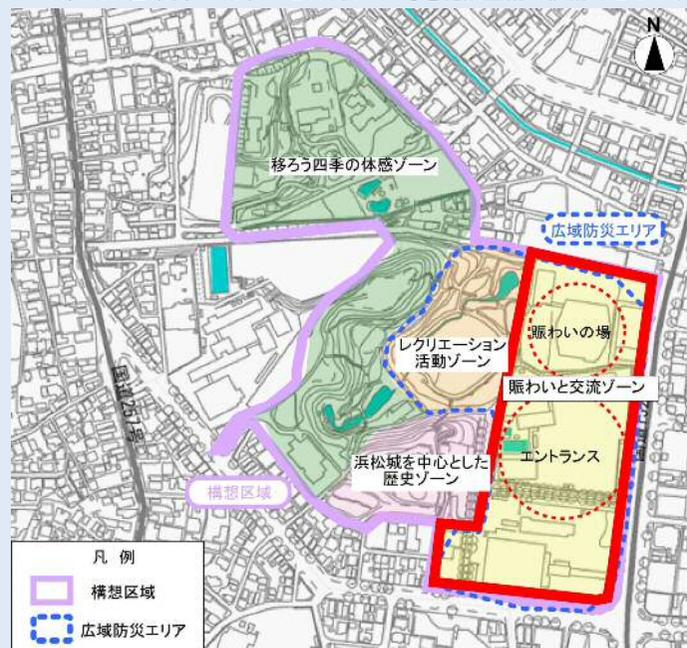
市民文化創造拠点施設整備を創造都市実現に向けた戦略的投資としていくために、以下を具現化できる施設としていく。

- ① 創造都市拠点機能の導入**
 - ・地域資源を活用し、伝統と革新が織りなす価値創造の場を創出
- ② 施設複合化による付加価値の創出**
 - ・複合化による利用者満足度の向上と集客力強化
- ③ はまホールの代替機能の継承**
 - ・教育における文化活動を中心に市民が使いやすい活動発表の場
- ④ 民間活力の導入**
 - ・民間ノウハウの活用によるサービス向上の財政負担の削減
- ⑤ 市民参加**
 - ・利用者となる市民の声を積極的に取り入れた施設計画
- ⑥ 都心まちづくりへの波及効果**
 - ・交流が生まれる拠点施設整備によるまちづくりへの波及効果

4. 市民文化創造拠点施設の基本的な考え方

(1) 施設整備の候補エリア

浜松城公園東側の「賑わいと交流ゾーン」を施設整備の候補地とします。

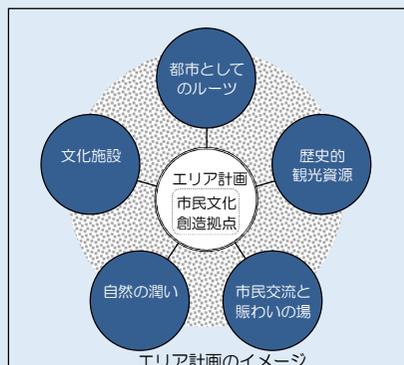


① 候補エリア選定の理由

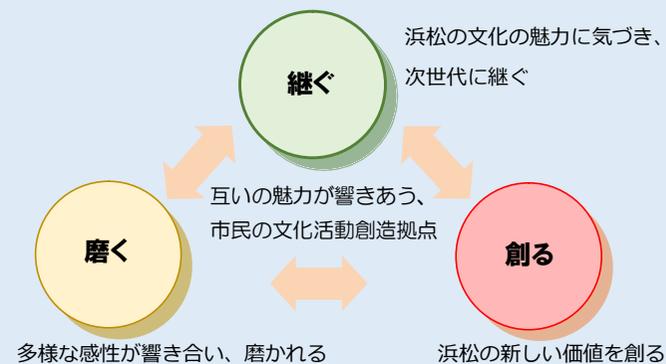
- ・浜松城公園には、歴史的シンボルでもある浜松城、美術館や松韻亭などの文化施設等があり、これらと文化創造拠点とが互いの魅力を高める相乗効果が期待できます。
- ・浜松城公園に創造活動拠点を整備することで、シビックプライド（＝市民が都市に対してもつ自負と愛着）の醸成を図ることができます。

② エリア計画の考え方

エリア計画は旧体育館跡地、旧元城小学校跡地のほか市庁舎の敷地を含むかたちで考えていきます。



(2) 基本コンセプト



(3) 考えられる機能

機能	諸室
ホール機能	ホール、リハーサル室
博物館機能	博物館分館
観光機能	観光案内
創造拠点機能	創作活動スペース、スタジオ・交流室 工房・創作室
交流促進機能	ロビー、ギャラリー、飲食、パティオなど
管理機能	事務室等

